

1. 開催年月日：令和5年5月16日(火) 15時00分～

2. 開催方式：対面とweb会議ツールを用いて実施。

3. 委員(順不同・敬称略) 出席：鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・山川 鉄郎

web会議ツールにて出席：宮崎 美紀子・神田 由築・西 正・倉田 真由美

専務執行役員：山口 真

編成部部長：小川 英洋

編成部：三瓶 祐毅 三品 貴志 八巻 洋平 大下 直人

番審担当：澤 尚志 清水 明

4. 議題

(1) 審議事項：日本映画専門チャンネル「監督 濱口竜介 ロングインタビュー」について

(2) 報告事項：時代劇専門チャンネル「生中継！ 映画『仕掛け・藤枝梅安』完成披露舞台挨拶」について

5.議題 (1)

映画「ドライブ・マイ・カー」で第74回カンヌ国際映画祭脚本賞、第94回アカデミー賞では国際長編映画賞を受賞するなど、国内外で数々の映画賞を受賞し、次いで公開された『偶然と想像』では第71回ベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞するなど、世界からも注目される映画監督、濱口竜介。2017年から監督作を定期的特集してきた本チャンネルでは、2022年11月からの特集企画「3ヶ月連続 監督濱口竜介の軌跡」に合わせた特別番組としてロングインタビューを提案したところ、テレビ番組初のロングインタビュー番組が実現した。濱口監督の制作意図や思いをありのまま伝えるべく、必要最低限の編集に徹し、放送枠にとらわれない前後篇に分けてのロングインタビューを放送した。視聴率、加入の両面から多くの反響があり、本番組と合わせて放送した『ドライブ・マイ・カー』も高録画率を記録した。

【審議のポイント】

- ① 本番組は、「すでに濱口作品に触れたことがある視聴者」に対して、濱口作品への理解をより深める補助線としての役割を目指して制作した。その目的に合う内容になっていたか。
- ② 感想及び、今後の番組制作に向けた改善点などはあったか。

6. 議題 (1) 審議内容 ※文中敬称略

- ・構成も担当したインタビュアーの高橋さんは初期の濱口作品から熱心に追いかけてきているのでポイントを突いた質問がいいし、対する監督も誠実に明晰に答えていて好印象だった。
- ・私には演劇論や演技論は難しすぎたが、濱口作品にしっかり触れた映画ファン向けには監督が何を語るのか期待させる企画だった。

- ・予告篇も紹介するなど、未視聴の作品に関心を抱きやすくするためにもう一工夫あってもよいと感じた。
- ・一度観れば他作品も観たくなるのだが、まずは番組タイトルに「『ドライブ・マイ・カー』の濱口監督インタビュー」のように結びつけないと関心の薄い視聴者は気づかないだろう。
- ・若干不完全燃焼なところもあったが、作品とインタビューを行き来しながら観ているうちに、他作品にも興味が湧いたので、総合して考えると評価できる内容であった。
- ・『ドライブ・マイ・カー』と『偶然と想像』を観てからインタビュー番組を観たので、作品への疑問が解消されたし、作品の感触はこういうところから来ていたのかと、格段の深みがあるインタビューだったと感じた。
- ・作品紹介の映像が短く、解説の文字もすぐに消えるため読み切れなかったことは残念だが、今後も監督にスポットを当てた番組作りを期待したい。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・スピッツが好きで高校時代に三谷幸喜や野島伸司のドラマを観ていたエピソードを引き出せたのは成功だが、一方で内容が高度で専門用語が飛び交うこともあり、ライトユーザーに対しては改善の余地があると強く感じた。
- ・今回のインタビュー内容については「ハードルが高い」などの意見もあったが、「語りを大切にするあの番組なら出てもよい」と、監督たちの間で話題になるのではと予感している。今後も、映画を軸にしながら、そこに何を足せばビジネスとして成功するのかを追求していきたい。

7. 議題（2）報告事項

時代劇専門チャンネル

「生中継！ 映画『仕掛け・藤枝梅安』完成披露舞台挨拶について

池波正太郎生誕100周年、時代劇チャンネル開局25周年を記念し、2023年2月3日、4月7日に二部作で公開された映画『仕掛人・藤枝梅安』。第一作公開前の1月26日に完成披露試写会が開催され、豪華出演陣が登壇した。満席の会場で作品の完成を報告し、極寒の京都での撮影エピソードなどを披露する模様を、時代劇専門チャンネルで生中継した。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、2023年8月23日(火) 15時30分～より開催予定。